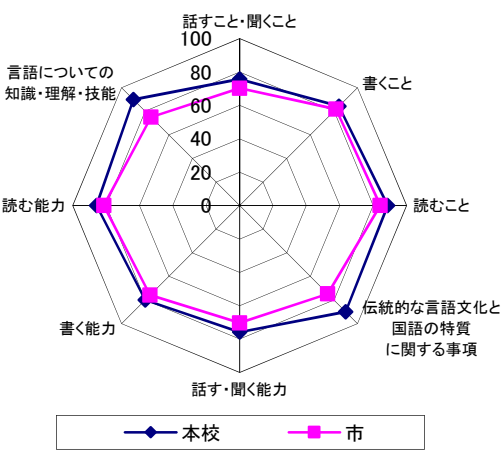


宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.8	70.3	68.2
	書くこと	84.2	81.7	80.6
	読むこと	88.7	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	89.9	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	75.8	70.3	68.2
	書く能力	80.0	76.0	74.1
	読む能力	85.7	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	89.9	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

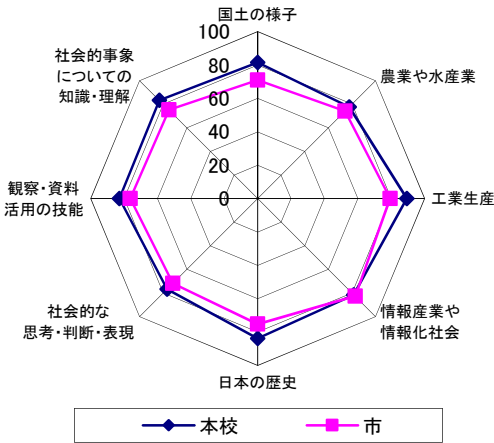
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市の正答率を5.5ポイント上回っている。 ○「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる」の校内正答率は94.7%で非常に高い。本領域に関する設問は全て市正答率を上回っている。 ●記述式の問題には、校内正答率が65%前後である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段から授業内で互いの意見を比較する時間や相手の意見に対する意見を述べたりする時間を設けている成果だと考えられる。今後も話し合い活動等を通して、継続した指導をしていきたい。
書くこと	・市の平均正答率を2.5ポイント上回っている。 ○「指定された長さで文章を書くことができる。」や「2段落構成で文章を書くことができる。」の校内正答率は89.5%である。また、「グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書くことができる。」の校内正答率も89.5%である。 ●「グラフから読み取った事実を書くことができる。」のは、校内正答率は68.4%の児童である。	・基礎的な作文力は身に付いていると考えられる。ただし、自己の文章を推敲する力は未熟である。 ・「グラフから分かることは何か」と問われた際に、どのような視点を持てばよいのか悩んでしまう児童が多い。文章の意図と提示されたグラフとの関連に気付くことができるようにしたい。新聞や社会科資料などを用いて、資料から事実を読み取る学習をさせていきたい。
読むこと	・市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ○「文章の内容を的確に読み取ることができる。」の基礎的設問では校内正答率が100%である。 ●「場面の描写を読み取ることができる。」の校内正答率は68.4%で市正答率を0.9ポイント下回った。	・各設問での平均正答率が高いが、個人差もあるため、段落相互の関連や接続語、指示語などの言葉の使い方、語彙などにも目を向けて、個別指導にも力を入れていきたい。 ・場面の描写については、授業内で挿絵や吹き出しを用いたり、様子を表す語彙の充実を図るなどして、表現されている場面を具体的にイメージできるような指導をしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の平均正答率を15.2ポイント上回っている。 ○漢字は定着しており、いずれも高い正答率である。 ●「同音異字について理解している。」の校内正答率は73.7%である。	・既習学年の漢字の正答率が若干低いため、毎日の漢字練習で復習に取り組みさせるなど改善を図っていききたい。 ・ただ文字として覚えるだけでなく、文章を書くときに使うことができるように例文や熟語を使った漢字学習を指導していきたい。 ・同音異字については、理解に個人差があるが、一斉指導する機会を設けたい。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.6	71.0	69.4
	農業や水産業	77.6	74.0	69.0
	工業生産	89.5	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	81.6	82.8	88.7
	日本の歴史	83.8	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	76.7	71.9	67.2
	観察・資料活用の技能	82.8	76.3	70.7
	社会的事象についての知識・理解	83.3	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

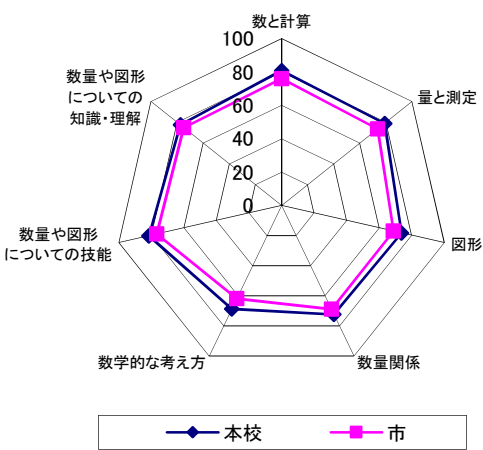
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・市の平均正答率を10.6ポイント上回っている。 ○「防災マップや会話を参考に、自然災害が起きた際の自助の大切さについて考えて表現することができる。」は記述式問題でありながら、校内正答率が92.1%である。 ●「国土の主な山脈、川、平野の名称について理解している。」は57.9%である。	・全体的に正答率が高い領域ではあるが、身近ではない山脈、川、平野などに課題が残った。地図を活用した授業を行うことなどの工夫をしていく。 ・「自助の大切さ」を問われる問題だったため、日々の避難訓練などを通して学んでいることを記述することができた児童が多いようである。普段の指導からも災害等に対する構えは身に付けさせる。
農業や水産業	・市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ○「稲作の工夫や努力について資料を読み取ることができる。」の校内正答率は94.7%である。 ●「稲作に従事している人々の、食の安全確保のための工夫について考えることができる。」の短答式の設問では、校内正答率が57.9%である。	・稲作体験などを通して感じていることと関連付けて、設問に答えることができている。授業時間内だけでなく、生活の中でも身近な農業の様子などを考えさせる時間を設ける。 ・仕事に従事する人々の工夫について、消費者、生産者の両方の視点から考えられるようにするために、立場を変えて物事を考える学習の充実を図る。
工業生産	・市の平均正答率を10.1ポイント上回っている。 ○「工業生産に従事している人々による、環境保全のための工夫や努力について考えることができる。」の校内正答率は、100.0%である。	・基礎的な知識は定着していると言える。知識を活用して自分の考えを述べるなど、授業の展開の仕方を工夫したり、新聞に考えをまとめるなど、思考する時間を確保する。
情報産業や情報化社会	・市の平均正答率を1.2ポイント上回っている。 ○「テレビやラジオ、新聞などの情報手段について理解している。」の校内正答率は、100.0%である。 ●「医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことに関して資料読み取って考えることができる。」の校内正答率は63.2%である。	・今後も自分の実生活と結び付けて問題を考えていく指導をしていく。 ・資料を見て自分の考えを整理する、表現する場を授業の中で取り入れる。
日本の歴史	・市の平均正答率を8.6ポイント上回っている。 ○「大和朝廷による国土の統一について理解している。」の校内正答率は、100%である。また、「板垣退助の働きを通して、国会開設までの過程について理解している。」の校内正答率も100%である。 ●「聖徳太子が定めた十七条の憲法の目的を理解している。」の校内正答率は57.9%である。	・教科書の出来事で留まるのではなく、知識の定着を図るために、個に応じた指導の充実を図る。 ・歴史的な出来事だけを覚えるのではなく、その背景にあった出来事は何かなど児童の問いをいかした授業を展開できるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.9	76.1	73.5
	量と測定	78.9	73.6	70.1
	図形	73.7	68.8	66.6
	数量関係	72.4	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	68.7	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	81.5	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	77.5	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

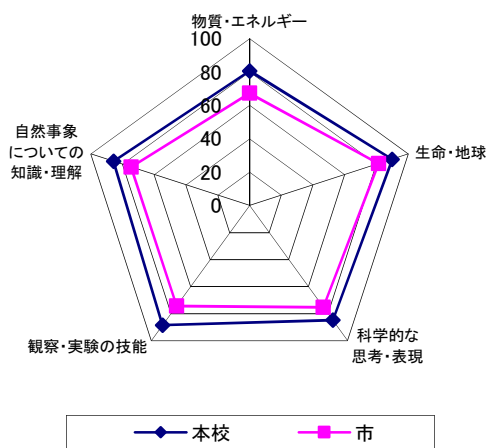
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・市の平均正答率を4.8ポイント上回っている。 ○計算の技能は定着している。校内正答率も高い。 ●「分数の除法の意味(わり算の性質)を理解している。」の校内正答率52.6%である。	・基礎的な四則計算の力は定着していると言えるので、今後とも継続的に習熟を図る。 ・文章問題については、問題を読み解くポイントを示し繰り返し指導していく。また、数学的な考え方を問う設問の正答率が低いいため、筋道を立てて答えを導いていく習慣をつけさせる。
量と測定	・市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ○「値に0があり、答えが少数になる、分離量の平均を求めることができる。」と「直径が与えられた円の面積を求める式を選ぶことができる。」の校内正答率は94.7%である。	・面積・体積・速さについての基礎的な知識は定着していると言える。継続的に復習させたり、活用問題に取り組ませたりすることで基礎の確実な定着と応用力を身につけさせる。
図形	・市の平均正答率を4.9ポイント上回っている。 ○「3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる。」の校内正答率は100%である。 ●「点対称な図形の対応する点を見つけることができる。」の校内正答率は42.1%である。	・基礎的な技能については、ほぼ定着していると言える。しかし、点対称の図形では図形を移動させたときの対応する点の位置が分からなくなる児童が多い。実物を用いるなどして、理解が深まるようにする。
数量関係	・市の平均正答率を3.5ポイント上回っている。 ○「比例の関係をxとyを使って式に表すことができる。」と「円グラフから割合を読み取ることができる。」の校内正答率は94.7%である。	・文字を使った式などの定着度は高い。これまでのように家庭学習で継続的に練習をさせたり、他の領域と関連付けて、比例や比の感覚を磨くことができるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	80.7	67.3	64.4
	生命・地球	89.8	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	84.9	75.3	72.6
	観察・実験の技能	88.5	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	85.7	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市の平均正答率を13.4ポイント上回っている。 ○「ふりこのきまりから、メトロノームのテンポを速くする方法を推察することができる。」の校内正答率78.9%で市正答率を19.8ポイント上回った。 ●「実験結果から、条件を変えたふりが1往復する時間を推測することができる。」の校内正答率は63.2%で市正答率を0.9ポイント下回った。	・実験の結果をもとに、条件の違う実験をした場合どうなるかを考えさせる機会を授業時間内に経験させたい。子どもたちの発想を大切にしながら予想を立てさせる。 ・実験結果からの考察、そこから得られた知識の定着を図るための指導を充実させる。
生命・地球	・市の平均正答率を8.5ポイント上回っている。 ○「消化された養分は主に小腸で吸収されることを理解している。」の校内正答率は89.5%で市正答率を24.4ポイント上回った。 ●「胎児は子宮内で約38週育ってから生まれることを理解している。」の校内正答率は73.7%で市正答率を7.1ポイント下回った。	・人体に関する設問で、正答率に差が出た。第6学年での学習内容については、正答率が高く、第5学年の学習内容については正答率が低い。定着していない項目があると考えられる。復習の時間を設けて、前学年までの知識の定着を図る。 ・実験や観察の結果から分かったこと、調べてみて分かったことなどを、自分の言葉で記述・説明することができる機会を重視して経験させる。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、それを文章にまとめて書く指導の充実	○自分の考えをもてるように、発問を明確にしたり、考えるヒントになるようなものを示したりする。 ○国語の授業だけでなく、どの教科・領域などでも、自分の考えをもつ活動やそれを文章で表現する活動を意図的に設定する。 ○子どもの書いたノートや指導法などを持ち寄り、共通理解を図る。	・書くことやまとめること、そして、それを表現することに対して苦手意識を持っている児童がまだ多い。
算数：学習内容の定着と習熟に向けての指導の充実	○授業の中で、学習内容の理解状況を確認する場を設けたり、類似問題に取り組み習熟を図ったりする時間を位置付けていく。	・知識・理解や技能面で正解率が高く出ている。しかし、個人差や学年差は大きい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「書くことやまとめることを習慣化していけるようにすること」や「様々な表現方法を経験させ、表現の楽しさを感じられるようにすること」を意図した活動を取り入れていき、苦手意識を持つ児童が少なくなるようにする。
- ・学習したことの習熟を図ったり、学習したことを思い出したりする時間を設定し、学習内容を保持していけるようにする。